

第53回東海・北陸地区公立学校 教頭会研究大会 富山大会

第4分科会 研究課題 「組織・運営に関する課題」

学校における地域との関わりや 教員同士の連携強化を目指す組織づくりと 教頭の役割について

静岡県 富士宮市教頭会
富士宮市立富士宮第二中学校 伊山 伸

静岡県 富士宮市

小学校21校 中学校13校

★大規模校と小規模校の差が大きい★

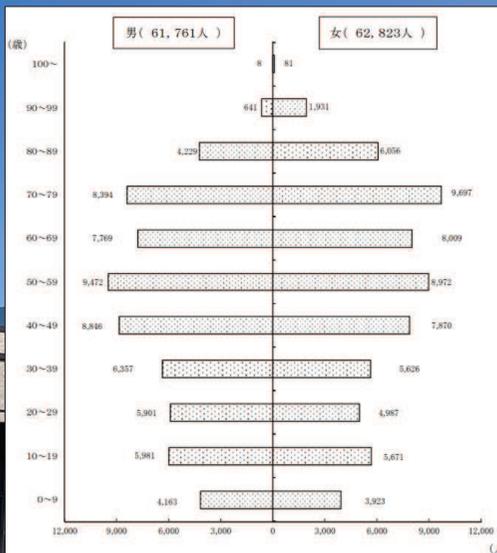
小学校 A校8名 B校898名(差112倍!)
中学校 C校21名D校649名(差30倍!)



組織・運営には大きな違いが出るが、どんな規模にもあ
る程度迅速に対応できる知見の共有が重要である!

静岡県 富士宮市

面積 389.08km² 人口 124,584名



学校における地域との関わりや 教員同士の連携強化を目指す組織づくりと教頭の役割について

1 主題設定の理由①

「チーム学校」の重要性

自校だけの取組・推進では限界がある

「チーム学校」とは

- ① 中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」による提言
- ② 背景に、教員の多忙化問題
- ③ 教員が本務に集中できる環境づくり
- ④ 職員・専門スタッフの配置
- ⑤ 様々な専門性をもった教職員が連携・協力することで子どもを支える組織

【自校だけでは…】

単学級
教科担任が一人
小規模校と大規模校
分掌の集中(業務内容の大小)
コミュニティの縮小化



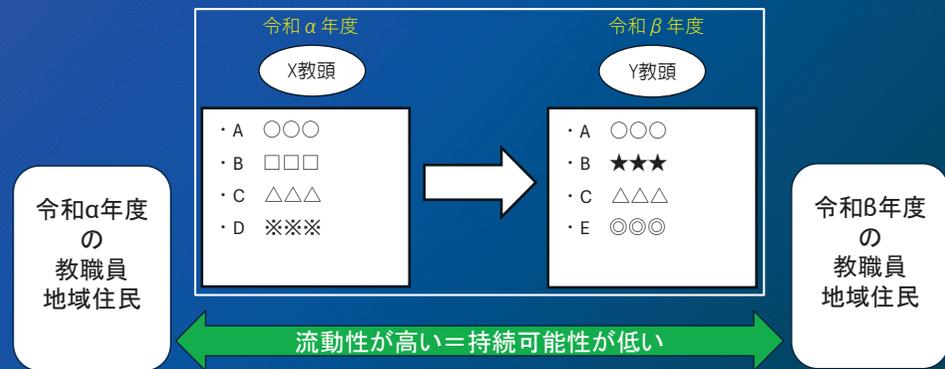
若手や経験の浅い教員を支える

組織を構成し、指導的役割を持つ
教頭の経験が浅い

独立行政法人 教職員支援機構
茨城大学 教授 加藤崇英先生の資料より

1 主題設定の理由②

教頭の異動による組織再構築の必要性



地域連携と教員連携の組織の強化が急務

2 研究の目的と方法

【審議と共有】					
A	B	C	D	E	F
グループ	グループ	グループ	グループ	グループ	グループ
令和4年度	成果と課題	成果と課題	成果と課題	成果と課題	成果と課題
令和5年度	成果と課題	成果と課題	成果と課題	成果と課題	成果と課題
令和6年度	成果と課題	成果と課題	成果と課題	成果と課題	成果と課題

各校教頭が計画的に実施

- ①地域と連携した学校の教育活動の推進
- ②人材育成を目指した組織づくり
- ③教頭の役割(教頭としての働きかけ)の考察

変化する社会情勢

現場の実態

地域の実情

学校も大きく変化…せざるを得ない

《研究の視点(仮説)》

- ・地域連携や教員の人材育成について、教頭間で密に情報共有を図れば、異動後、1年目の教頭業務もスムーズになるだろう。
- ・地域連携について、持続的な活動に集中して取り組むことで、属人的な要素が薄まり、組織的に動ける力が増すだろう。
- ・若手や中堅を分掌の中心に持って行くことは「自走する教員(集団)」を創る有効な手立てになるだろう。

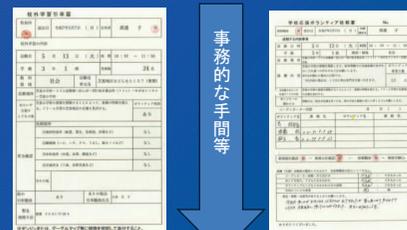
3 研究内容(1) 「地域と連携した教育活動」 ①学校応援団・地域学校協働本部の活用

「学校のために何をしてもよいか分からない」という声

地域学校協働本部ベースの新たな人材発掘の必要から…。

学校に協力するための「段取り」の準備と広報
→「通年」より「年度始め」が効果的!

「学校応援団」の募集



事務的な手間等



地域コーディネーターとの連携

「先生が教わる」地域に育ててもらおうという視点も重要→人材育成にも

3 研究内容(1) 「地域と連携した教育活動」 ②コミュニティ・スクールの導入研究

**「学習支援や
日常的な補助活動」**



各小中学校では、自校の強みを生かし、地域と連携した教育活動が展開されている。

教職員の負担軽減につながる

各学校で同じ取組は困難であるため、強みを生かした取組に限定することで、持続可能な教育活動となると考えている。

地域の活性化・地域住民のやりがい創出などの効果

地域の方々への「自主性・主体性」を刺激できる。「地域の子は地域で育てる」という考えが醸成される。



3 研究内容(1) 「地域と連携した教育活動」 ②コミュニティ・スクールの導入研究

(コミュニティスクール設置に向けての研究の中で...)
ステークホルダーのおさえ = 「Win・Win」を追究

- 1) 児童・生徒の実態
- 2) 区長・地域役員との関わり
- 3) 地域・学校の歴史を学ぶ

「学校評議員会」の皆様を中心として

[準備会]の開催

地域と学校の考えの
大きなズレ



全職員参加の熟議の必要性=意識(自分ごと)

3 研究内容(2) 「人材育成を目指した教員の連携」 ①静岡県教員育成指標の活用



静岡県教員育成指標

「教職員人事評価制度に係る面談を生かす」

人事評価面談では...

自己目標シートを用いて自己目標、達成するための手立ての説明

【グランドデザイン】

【これまでの自分】

【これからの可能性】

“ブレ”が大きい→どの学校でも共通して考えられるものがない



【静岡県教員育成指標】

自走する教員
(自ら育つ)

学校や地域の実態にとらわれないキャリア形成を考えることができる。

3 研究内容(2) 「人材育成を目指した教員の連携」 ②組織内の新しい役割と連携

「大規模校と小規模校ではできることが違う」

小学校 A校8名 B校898名(差112倍!)
中学校 C校21名D校649名(差30倍!)

(例)小学校6学年とも
「単級」+支援級3クラス
学年部が存在しない
(例)多くが複式
(例)35人学級

小中連携 幼保・小連携 小小連携 中中連携

「OJT」推進

- ◎各部会の長を「中堅年代」から選出する。
- ◎分掌「副主任」の設定(例)学年副主任者会
- ◎ベテランは「アドバイザー」



◎研修の日常化

自走する教員



「見える化」ボードの活用も連携のうち

→集まらなくても支援・指示・指導ができる→効率化(新人へのフォロー)

	採用時	基礎・向上期	充実・発展期	深化・熟練期
キャリア ステージ	○教育に対する真摯な姿勢を持つとともに、求められる資質能力の基礎を形成しようと努める。	○他者との関わりや仕事上の経験を経て、教員としての資質能力の向上を目指す。 ○様々な学校の異動を経験する中で、視野を広げる。	基礎・向上期に身に付けた力に加え、 ○自らの立場や役割を自覚して学校運営に参画し、ミドルリーダーとしての資質能力の向上を目指す。 ○教員としての幅をさらに広げ、自己の強みを確かなものにする。	充実・発展期に身に付けた力に加え、 ○指導的な立場として、学校運営のサポート役や校内の人材育成の推進役を務めるとともに、専門性をより深め、自らの描いた理想とする教員像の実現を目指す。 ○学校運営をリードする立場として、組織的に教育活動を推進する体制を構築する。
資質 能力	キャリアステージに応じて、実践・省察・改善を繰り返しながら、必要な資質能力を身に付ける			
教育的素養・ 総合的人間力	<ul style="list-style-type: none"> ○教職人生を通して、教育者としての使命感、倫理観・人権意識、社会性、教育に対する誇りを持ち、新しい知識・技能を学び続け、子供への共感・理解や教育的愛情の涵養、信頼関係の構築を図っている。 ○教職人生を通して、真摯に学び続ける姿勢と自信心、変化を恐れずに学習者とリーダーシップを持ち、広い視野と社会課題への理解を基に地域社会と関わり、豊かな人間性の向上を図っている。 ○「才能兼備」の人づくりを担う一人として、常に児童生徒の模範となるよう行動している。 			

【静岡県教員育成指標】

3 研究内容(2) 「人材育成を目指した教員の連携」 ②組織内の新しい役割と連携

「若手同士(若手が主催)」の研修会の実施

若手同士が授業を参観できるように時間割を調整
「年齢・経験の近いもの」同士→**向上心の育成**
他学年・他教科の授業を見ることで→

学習の系統性の理解が進む(教科横断・学年縦断の意識)

初任者研修を受けていない講師も研修に組み込む(今後、正規職員になる可能性)ここで教員としての資質を育てる()

「ICT」を学ぶ際の「若手」の強みを生かす

ICTの活用=新しいものへの対応力・適応力

強み!

若手

双方向の学び
《シナジー効果》

中堅・
ベテラン

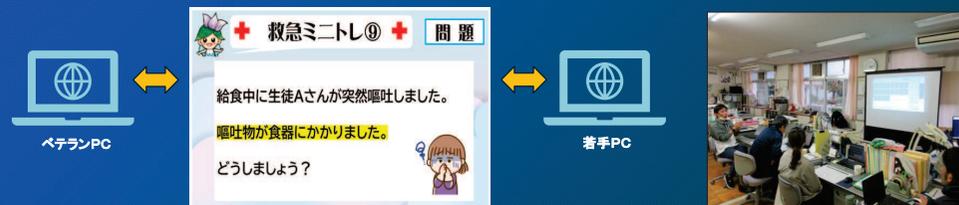
全員が成長する集団



3 研究内容(2) 「人材育成を目指した教員の連携」 ②組織内の新しい役割と連携

「ベテラン教員の経験の共有と継承」

- ①ベテラン教員による研修・模範授業の実践
- ②「ICT」を活用して共有の日常化を図る
- ③「カフェ」から「組織」への転換を行い、経験の共有を図る



「設定型研修」から「日常型研修」への転換により、時間の確保ができる



3 研究内容(2) 「人材育成を目指した教員の連携」 ②組織内の新しい役割と連携

中堅職員を育成する 《学年副主任者会》

中堅教員のマネジメント力を育成
(組織として明確な位置づけ)

より広い視野をもち、多面的多角的に状況を分析し、個人だけでなく、学年集団に対するの助言・提案をできる力を早期につけることができた。

【管理・運営能力獲得】の助走を長くするための組織的実践



日々の教育活動(学年)

3 研究内容(2) 「人材育成を目指した教員の連携」 ②組織内の新しい役割と連携

「小中合同研修会の実施と運営」

中学校の校区内の小中学校の教員による研修会や連絡協議会を計画
「研修部」「教務部」「特別活動部」「教護教諭部」「生徒指導部」を構成し
分散会を年間3回実施(1中学校・3小学校の計4校)

- ・育成すべき「資質・能力」の共通理解(小⇄中)
- ・活動の継承と発展(合同あいさつ運動)(生徒会・児童会の交流)
(教育課程)(実態を捉えた身体づくり)

※構想図の
共通化など

小中9年間を見通した教育活動の意識の全体共有を図ることができた。

【教育活動の一貫性】

【中学進学への意欲付け】 【防災】 【地域行事】

教育活動

保護者理解が進む

地域住民理解が進む

それぞれが
それぞれの理解

4 教頭としての働きかけ(1)

地域ボランティア活動のコーディネート

児童生徒と直接関わりをもつのが適当でない活動
児童生徒と直接関わりがもてる活動

スクールサポートスタッフに依頼したり別に組織を作ったりする等



【花壇ボランティア】



【防災ボランティア】



【交通安全ボランティア】



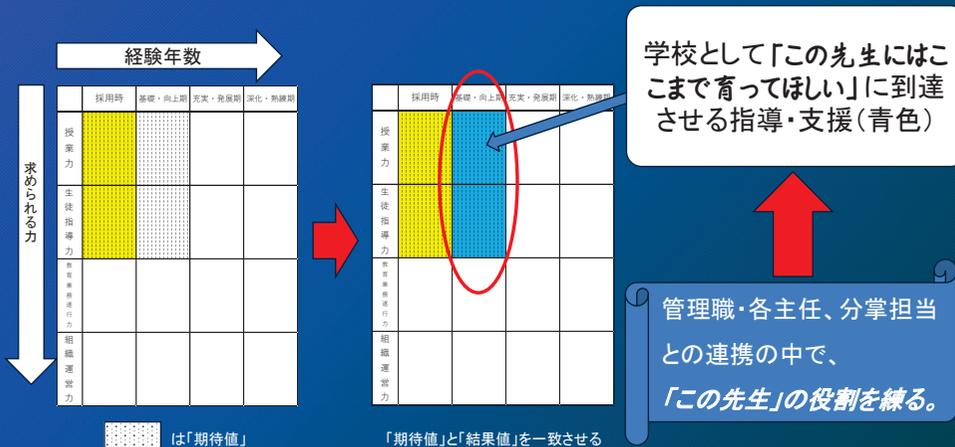
【マス釣り大会ボランティア】

コミュニティスクールへの集約へ

学校運営協議委員の理解
コーディネーターの育成

4 教頭としての働きかけ(2)

教員一人ひとりとの対話によるキャリアデザイン



5 今後の課題



(1) アフターコロナ

【行事の再構築】スクラップを進めるにはどうしたらよいか(本質は守る)

(2) コミュニティ・スクール

【関係者の組織化】コミュニティスクールへの集約をどのように行っていくか

(3) 少子化への対応

【規模縮小への対応】小規模校の増加、学校の小規模化にはどうしたらよいか

【時間の確保】余裕のある教育活動を進めるにはどうしたらよいか

防災士の皆様
区長会
民生児童委員
OB etc....



より多くの方々、より広い地域の学校に
対する理解と協力を必要とする。



まとめ

★「組織・運営」に関して、「教頭の役割」とは？

キーワード
「つなぐ」「いかす」「そだてる」

【ハード】 ヒト・モノ・カネ(予算)
【ソフト】 情報 意識 雰囲気

ご清聴ありがとうございました。

皆様からのご感想、アドバイス、
ご提案等いただけたら幸いです。

よろしく申し上げます。

第53回東海・北陸地区公立学校
教頭会研究大会 富山大会
静岡県 富士宮市教頭会

